

題 目 間接互惠性状況において他者の **Assessment Rule** が明示的であるときに人々は行動を調整するのか

氏 名 山元佑也

指導教員 高橋伸幸

ヒト社会に見られる大規模な相互協力の成立メカニズムに関する理論の 1 つとして、間接互惠性 (Alexander, 1987) が提唱されている。そして、多くのモデル研究においてそれを維持し得るエージェントの戦略が存在することが明らかにされてきた (e.g., Ohtsuki & Iwasa, 2004, 2006; 真島・高橋, 2005a, b)。しかし、それらの研究ではエージェントは周囲の環境に応じて自身の戦略を調整するということは想定されていなかった。そこで、本研究はまず、自身の戦略を調整するエージェントを想定した場合に、集団における間接互惠性が成立するためには集団内の戦略の統一が重要であることを提起した。さらに、集団内の戦略の統一にはエージェントが他個体の戦略を推測し、それにに応じて自身の戦略を調整することを通じて為され得ることを議論した。ただ、この議論におけるエージェントと現実のヒトの行動がどこまで整合的であるかについても検討すべきであると考えた。そこで、ヒトは他者及び集団における評判のつけ方が明示的であるとき、それに合わせて自身の戦略や行動を調整するのかを検討した。本研究では **Qualtrics** を用いて場面想定法質問紙を作成し、調査を行った。調査では、提示される集団の人々の他者に対する評判のつけ方が異なる 3 つの条件 (統制条件・**Extra Standing** (真島・高橋, 2005b) 条件・**Image Scoring** (Nowak & Sigmund, 1998)) を設定し、シナリオに登場する、集団において評判の良くない人物に利他行動をとるかどうかを測定した。条件間で、利他行動をとるという回答の割合に違いが見られるかを分析したところ、**Image Scoring** 条件と統制条件の間に違いは見られず、**Extra Standing** 条件の方が統制条件よりも利他行動をとるという回答の割合が低かった。また、**Extra Standing** 条件においては、集団における他者からの印象や行為を適切であると評価されるかを気にすることで利他行動を控える傾向が見られた。このような結果から、本研究は、ヒトは集団内の他者の評判のつけ方によっては自身の戦略や行動を調整し得るということを示した。さらに、本研究の結果はモデル研究において、エージェントが周囲の状況に応じて自身の戦略を調整する可能性を考慮することを想定することは妥当な方向性の 1 つであることを示唆した。